

CHAIR? GALLERY

名作椅子に見るリデザイン展

■期日：11月8日(火)～6月3日(日)

■開館時間：11:00～17:00(～4月)、
10:00～18:00(5月～)

■休館日：毎週月曜日、
12月30日(金)～1月4日(水)

■主催：旭川デザイン協議会、
織田コレクション協力会

■入場：無料

■趣旨：リデザインとは、自作、他作を問わず、過去にデザインされたモノの中に問題点、改善点を見出し、改めてデザインし直すことによって、より良いモノを創り出していこうとする行為です。本展示では織田コレクションの中から名作椅子に於けるリデザインをテーマにその実例を紹介します。



ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION

旭川デザイン協議会

〒070-0030 旭川市宮下通11丁目 蔵田夢

コレクション館内

Tel.0166-23-3000 Fax.0166-23-3005

E-mail ada@ada-jp.org

Hp <http://ada-jp.org/>

2012 Vol.25

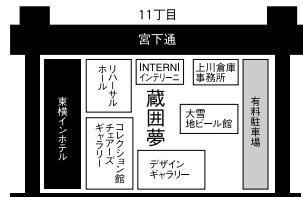
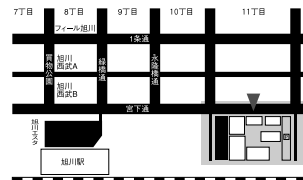
発行日/2012年3月10日

発行/旭川デザイン協議会

発行責任者/小林 謙

編集/広報事業部

印刷所/株式会社製版旭川支社



ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION
Design News 43 vol.25



2011年を振り返り

旭川デザイン協議会 会長 小林 謙

2011年度は、新体制のもとで、さまざまな新しい活動が行われた年でした。活動にご協力、ご参加いただいた会員の皆様、とりわけご担当いただいた方には、大変なご尽力を頂きました。お疲れ様でした。本当に有り難うございます。また、旭川市を始め、上川倉庫様他関係各位のご理解・ご協力には、会員一同深く感謝しております。1999年に発足した旭川デザイン協議会は、一昨年10周年の記念行事を行い、その機会に、澁谷顧問の発案で「旭川のデザイン史をつくろう」との呼びかけがなされ、私たちの活動のこれからのヴィジョンのために、地域のデザイン活動を振り返ることから始めました。今年度の活動はその延長線上にあり、地域と密着したデザインの姿を模索する活動を展開してきました。

ピンチなのかチャンスなのか、いずれにしても私たちを取り巻く環境は大きく動いております。東海大学芸術工学部の募集停止と、それに伴う「公立ものづくり大学」に向けた市民運動、また、最終局面を迎えた北彩都地区の再開発事業では、ほぼ中核に位置するデザインギャラリーやコレクション館の、地域に対する役割をより明確にすることや、私たち地域デザイナーの再開発事業への提案や発信が問われています。国際家具デザインフェア旭川「IFDA」も昨年8回目を迎え、デザインを通じて旭川地域の知名度を世界的なものにしたこの事業も、その次の展開を模索する時期にきています。私たちの活動では、2004年までは、各デザイン分野が、それぞれの作品展示などを通して、共同意識を醸成する準備運動のような期間でした。それからの5年間は「デザイン・マンス」の事業により、その年の共通テーマで地域へ発信した共同成果発表を行った期間でした。2010年以降は、デザインを通じた新しいものの創造と、次世代へ継承する期間にならなければならないでしょう。

今年の活動では、9月の「三都市+1デザイン交流会議」、1月の「旭川デザイン協議会展(ADA展)」が、会を挙げて実施した大きな行事でした。各地域のデザイン活動の足取りや、地域で育ちつつあるものの掘り起こしなどが新しい視点でしたが、その内容は会報24、25号の特集記事に詳しく掲載していただきましたので、そちらをご参照いただきたいと思います。ここでは本年のデザインギャラリーの展示から、地域のデザイン動向について感じたことを述べてみたいと思います。

「IFDA2011」の審査会から始まった今年のデザインギャラリーの展示スケジュールですが、個人的には「下村朔朗グラフィックデザインの世界」や幾つかの個人展など興味深い展示会がありました。地域のデザイン動向という点では、5月に開催された、若いものづくりグループの作品展「ミクル(many a little makes a mickle)の手仕事展」を注目しました。工房を軸に、

作る人や計画する人など多彩な立場の人たちが個性的なものを展開し、各地のデザインマインドの高い会場での展示や、インターネットなどで社会にアピールし、販売に結びつけている姿に、地方に基盤を置く新しいものづくりのモデルを感じました。地方的な内向きの文化活動としての美術やデザイン、作家活動としての工芸ではなく、規模は小さくても産業としての拡がりや力があるように思えます。次に、毎年たいへん来場者が多い工芸協会展(今年は約1600名)の、今年のテーマは「サポートするクラフト」でした。近代デザインでは「工芸」は作家的、趣味的なもの、あるいは手業だけのもの作りで遅れた産業と見られがちですが、ただひたすら大量生産を求める近代産業に対し、適量生産可能な工芸のメリットを生かした「障害のある人や高齢者そして健常者を含めて使う人へサポートできるクラフト作品」は、きめ細かいもの作りの可能性を見せてくれました。

来館者数の最も多かった企画は、今年も2000名を超える人が訪れたアトリエ・デシモーネさんの展示会でした。あまりデザインとしての話題とならないのですが、ここにも新しい動きを感じます。いまやプロのデザイナーや生産者と、受け身の消費者の間に、膨大な数の「自らもの作りを行う人々」が生まれつつあるようです。A・トフラーが「第三の波」で予言した、プロシューマー(市場外の生産活動を行う人々)の登場が現実になってきたのでしょうか。これからのデザインはこれらの人々との対話を真剣に考える必要があるように思います。このような「小さいが広がりのある」「多様な要求へ答える」「プロシューマーと対話する」などのデザインの芽から、地域のオリジナルティが生まれ、新しい次世代の産業が育って行くのではないのでしょうか。

90年代に地場産業の振興とデザインの啓蒙を目的に各地に作られたデザインセンターの多くは変節し、近年は名古屋・神戸などクリエイティブ・デザイン・シティと呼ばれるものが生まれています。旭川にはデザインセンターと名のつく建物はありませんが、「試験研究機関」「国際コンペ」「高等教育機関」など各地のセンターの果たしている機能は、今でも全部そろっています。年頭ADA展の「地域デザイン戦略委員会」では、私は会議テーマとして「今から行動すること、私たちに出来ること。」を挙げました。今は、色々なものが絡まり合って動きが取れないような印象がありますが、小さな糸口を見つけ引っ張ることで、良きデザイン、良きデザイナーを生み、育て、集める地域となる強い流れが出来るような気がします。皆様と共にその糸口を見つけ行動したいと思います。これからもよろしく願いいたします。

ADA展2012クローズアップデザイン

旭川デザイン協議会 副会長 やはずのよしゆき



2012年のADA展は、ADAの役割として「デザイン分野の横のつながり」「デザインの社会的役割の追求と他分野・市民の理解獲得」「デザイン業界の発展」「デザインが地域の活力となる」という小林会長の2011年度指針(?)に基づき、地域デザイン戦略委員会メンバーたちによる会議でまとめられたテーマに沿って考え方が組み立てられました。

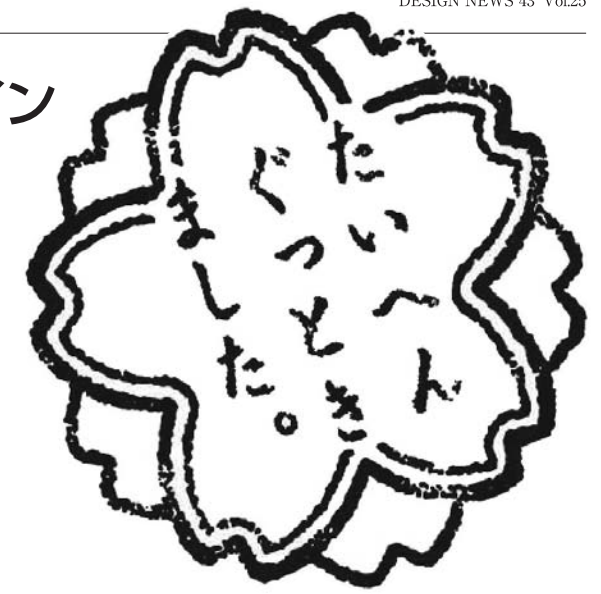
ADA会員による独自の視点で優れたデザインをピックアップ。「これがワタシのイチオシだ!」と銘打って、2012年1月5日(木)から22日(日)にかけて、家具、工芸をはじめ、建築、インテリア、写真、広告、ディスプレイ、食品、教育機関まで、さまざまなジャンルの会員がクローズアップした「旭川」にまつわるグッドデザインを一挙に展示しました。

期間中、桑原企画・催事事業部本部長の数年越しの夢が叶った餅つき大会が、90名をも超える参加者に見守られ開催!! 例年と違った展示会の中、次のステップに繋がる盛り上がりを見せていたのではなかったかなあ〜とちょっとだけ感じられた「ぐっときた」デザイン展でした。

【北海道教育大学旭川校グループ】のイチオシ! tekの製品シリーズとそのグラフィック展開

我々大人も含め、現代の子供たちを取り巻く環境は、あたかもハイテクノロジーの渦に翻弄されているかのようにも見える。そんな中、旭川生まれで旭川育ちの、このデザインシリーズは、子供たちを見つめるまなざし、親子でのコミュニケーションの大切さを、あらためて穏やかに、私たちに問いかけてくれている。

□推薦グループ代表：前田 英伸



【東海大学芸術工学部】のイチオシ! 北の模様帖

岡 理恵子(2004年研究科卒)

北海道東海大学の在学中は学生会員としてADAに参加。卒業後「点と線模様製作所」を一人で起業しました。捺染の生地を始めマスキングテープ(倉敷意匠)・ナブキンなどが評判になり、大学時代に作った「北の模様帖」は全国ブランドになりつつあります。北海道の自然や情景をモチーフにした彼女の作品が、北海道のオリジナルデザインとして全国に広がることを期待しています。

とまり木

片田 千香子(2009年卒業)

今年のIFDAの入選作品。この作品は、授業で生まれた作品を2009年度卒業研究でブラッシュアップ、シリーズ化したものです。「ポケット内の小物が入られる小さなスペースを設けることによって、身支度がよりスムーズになる」という提案です。今後地元企業による商品化が予定されています。すこし重たいイメージのある旭川家具に、軽やかな風が吹いた感があります。

三木りんご園

鎌田 順也(1998年卒)

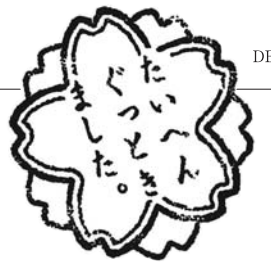
日本のグラフィックデザインの最高峰の一つである2011JAGDA 賞を「三木りんご園」で受賞。さらに、2011日本パッケージデザイン大賞では金銀ダブル受賞しています。今までもブルノ国際グラフィックデザイン・ピエンナーレ、ニューヨークADCでMerit賞等々、国内外で多数の賞を受賞するなど活躍しています。今回の受賞では、北海道の農業者のVIで最高の評価を受けていることがさらに喜ばしいことと思います。

下川環境共生型モデルハウス美桑

櫻井 百子(1995年卒業)

全国的に注目された「環境省のエコハウスモデル事業(2009年度)」の各地で開催された実施コンペで、道北の下川町住宅を設計し優勝しました。完成した「下川町モデルエコハウス」は赤レンガ建築賞奨励賞(2010年度)を受賞。この作品は、後輩の学生達の住宅設計入門編の課題として取り上げられ、図面と模型が再現されました。現在、札幌にて1級建築士事務所アトリエmomoを主宰し、今後の建築界を担う有望な人材です。

□推薦グループ代表：小林 謙
メンバー：荒井 善則 小川 博 織田 憲嗣 澁谷 邦男
中尾 紀行 林 拓見 藤森 修 松澤 衛



【広告グループ】のイチオシ! ビスタマップ旭川

これは航空写真ではありません。正確な地図です。「俯瞰図(下.写真左)」とか「鳥瞰図」と呼びます。CGプログラマーがデジタル地図を3次元におこし、デザイナーが雲を入れたり緑や木を描いたりして地図にしています。よく見ると、家が一軒々々入っていたり、かたちが上手に省略されています。旭川には、このような仕事をする地図デザイナーがいます。2007年国際地図会議で「地図としての素晴らしさへの最優秀賞」を頂くことができました。

日本のまつり・旭川1990ポスター

青森のねぶたから四日市入道、四国の阿波踊り... 全国の祭り15団体を旭川に招待するという途方もない企画を実現した「日本のまつり・旭川」。開村100年の目玉行事であったこの祭りは、ボランティア2,700名、出演者7,500名、観客69万人、そして3億円の予算をかけたそのスケールにおいて、今でも語り草となる、旭川史上最大のイベントであった。そのポスター(金色の方・予告編)が、ポスターの3大国際コンクールといわれる第13回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレに入選。まつりの周知宣伝に大いに貢献したのである。

□推薦グループ代表：矢野野義之
メンバー：伊藤 友一 井上 隆也 上田 政夫 大野 隆
小野 慶治 勝浦 恭子 下出 敏男 西嶋美代子
福士 成悟 三広堂 須田製版 古久保ネーム工場
旭川広告デザイン協議会



【インテリアグループ】のイチオシ! 旭川がイチオシ!

旭川は、生活に大切な食と住に誇れる素敵な街です。厳しい自然の中から生まれた美しい四季。その四季折々を楽しむ暮らしをご紹介します。

□推薦グループ代表：大谷 薫
メンバー：今富美由貴 及川 知巳 城台 幸子 丹野 尚美
林田 千秋



【工芸グループ】のイチオシ! こども向け屋内遊戯場 もりもりパーク

フィール旭川6階に、旭川市がこどもクラブ(本社札幌)に業務委託し9月16日オープン。保護者同伴で0才児から小学校低学年が、無料で、午前10時から午後7時半まで利用できる、約1000㎡の森をイメージした空間に各種大型木製遊具を設置した施設です。インテリアデザイン及び遊具デザインは建築家の浅野正樹氏、木製遊具類の製作のほとんどは、旭川家具組合で担当。学校や幼稚園単位での利用も多く、休祭日には一日1000人以上が利用しています。

□推薦グループ代表：中井啓二郎
メンバー：菅井 淳介 滝本 宣博 南 正剛 山田 克己
旭川工芸デザイン協会



【建築グループ】のイチオシ! 神居古潭の季節と景観

「旭川」をキーワードとし選んだのが、神居古潭のつり橋を含めた全体的な景観をイチオシデザインとしてあげます。季節に応じたさまざまな景観、同じつり橋であっても見方によって違う一面があります。「遠くからつり橋を見る場合・橋から眺める場合・渡っている途中に見える景色」などさまざまな一面を「旭川」のデザインの一部として考えたからです。

あなたはどこから見るのがイチオシですか?

□推薦グループ代表：池本 裕治
メンバー：金谷美奈子 鈴木 徳雄 山口なざさ
シスコン・カムイ



【写真グループ】のイチオシ! 旭川の清流にかかる橋、 そしてメインタワー

旭川を代表するものは数々あるが、中でも昔から大雪山を源流とし、姿を変えながら流れ込む4本の「川」。それは命を育む豊かな清流であり、その流れで隔てられ市街地の土地と土地を繋ぐのは「橋」。人々の生活や心の絆と交流を支え、文化や経済発展に貢献してきた。私たちは、流れに架かる「橋」の恩恵に着目し表現を試みた。

旭橋をメインに、そして唯一ロータリーに聳えるタワーも隠れた旭川のシンボルとして存在する。

□推薦グループ代表：福田 光男



【家具グループ】のイチオシ! 国際家具デザインフェア 旭川2011 (IFDA)

1990年から3年に1度開催している「国際家具デザインフェア旭川」は、今回で8回目の開催を数えました。回を重ねるごとに世界的な広がりを見せ、メイン事業のデザインコンペには世界39カ国・地域より899点の作品応募がありました。入賞入選作品は旭川家具として数多く製品化されています。

□推薦グループ代表：杉本 啓維
メンバー：長原 實 吉村 純一 吉村 之男 カンディハウス
匠工芸 メーベルトコー 旭川家具工業協同組合



【ディスプレイグループ】のイチオシ! 省エネLEDイルミネーション

ディスプレイグループでは今回イオン旭川西の冬の装飾イルミネーションをイチオシとしました。今回イオン旭川西が開店5周年でリニューアルをし装飾も新規入れ替えとなり昨年までは白熱球とLED球の組合せによる装飾でしたが今回のイルミネーションはLED球のみです。

電球数・電気容量 センターコート/LEDカーテンライト
10,000 球 LED
ギャラクシーライト 1,000 球×5個=5,000球/消費電力 計
660W
1,2,3F モール通路天井部・フードコート天井部・センターコート天井部/LED
アイスクリームライト12,000 球消費電力 計720W

省エネ・エコのディスプレイです。

□推薦グループ代表：吉田 俊明
メンバー：吉原 英樹



【食品グループ】のイチオシ! 旭川しょうゆ焼きそば

「旭川しょうゆ焼きそば」は、食を通じて地域を元気にしようと旭川食品加工協議会が2010年秋の「北の恵み食べマルシェ」で試作販売したことがきっかけで誕生しました。高い製麺技術と醸造技術を生かした米粉麺としょうゆダレは絶妙な相性。旭川の風土と食文化、食品製造関係者の思いが産んだ「旭川しょうゆ焼きそば」は、参加飲食店の数も増え、各種イベントでも大好評です。地元をはじめ観光客にも幅広く愛されるご当地グルメとして「イチオシ!」。

□推薦グループ代表：金田 道徳
メンバー：和田 徳子



2012年 新年会・餅つき

企画・催事事業部 交流事業部

1月14日デザイン協議会初の餅つきが催された。担当会員も初の試みとあって、餅つき経験者はその記憶をたどりながら会議を重ねた。デザインギャラリーの片隅にうすと杵、しゅうしゅうと湯気を立てる餅米、作業台にはしる粉にきな粉、納豆たちがスタンバイ。小林先生による記念すべき第一打が倉庫内に響く。「よいしょ!」のかけ声に参加した子ども達も興味津々のまなざし。外は吹雪。子ども達の小さな手で丸められたお餅の味はいかがでしたか?



新年会

平成24年1月14日(土)
19:30~
ADA展に伴い、新年会を開催。
ADA会員・一般含め、38名の参加となりました。



地域デザイン戦略委員会

「地域ものづくり産業の理念」

旭川デザイン協議会 顧問 長原 實

世界の中のアジア、アジアの中の日本、そして日本の中の旭川、それぞれに地域特性がある。しかし最重要課題は、未来志向による旭川での地域戦略だ。グローバル時代だからこそ自らの方向性を育てる。大きな時代変革を見据えながら、大量の生産と消費を基調とした20世紀型の社会ではなく、芸術、文化の香り高い地域特性を自らの手によって創りあげることが重要なのである。

我が旭川デザイン協議会も、産学官共働による活動拠点を持った地域振興活動として今日に至っているが、東海大学を失う事による運営上の問題点は大きい。旭川市を中心とした上川盆地は、地勢学上から見ても豊富な森林と広大な農業地域、そして清涼な水資源といったものが地域を支えていることは言うまでもない。これらが6次産業まで一貫通貫の産業構造を構築するためには、なんとといっても豊かな知性と創造力が必要だ。

そのすべての過程で必要な機械装置プラント開発を含めた、創意工夫による最大の付加価値を生み出すのが「デザイン力」である。そして、人々の生活を支える日用品には、ガラスや土をもって生み出すものや金属工芸など、世界に問いかける力のある芸術的感性を持った人材を育成する社会風土を生み出すのも、産学官の共働による長期計画でなければならない。と同時に、

この地域にはその可能性が高いと信じている。何故なら、海から一定の距離を持った寒冷な盆地であるが故の忍耐力や、精緻な神経や美観は、磨けば光るものを必ず持っていることを知っているからである。回を重ねて開催してきた「国際家具デザインコンペ」が、旭川の家づくり人の考え方を世界に発信し、信用を高めてきたのも、時間を味方につけてきたことが大きな要因だ。

「ものづくり大学」構想も、我々自身が主体的にその理念哲学をもち、それを世界に発信する個性として考えることが重要で、日本人特有の精緻な職人文化に芸術的感性が加われば、長年の使用と鑑賞に堪える美しい暮らしの道具がさまざまな分野で個性を発揮することになり、社会全体がオリジナルの価値を認め、低質なコピー商品をもって生活文化も低質化させることに終止符をつけたい。私達皆が暮らしの質を求めようになり、数十年の時間があれば、必然的に落ち着いた美しい都市空間も形成されるだろう。旭山動物園も半世紀の歴史があつての今日であることを考えると、一過性の観光資源を追い求めるのではなく、住民の魂を込めた普遍性が観光資源であり、地域の財産なのである。より多くの創造的人材が街をつくり、世界に発信する地域社会を育てるためにも、この地に21世紀の「ものづくり大学」が必要なのである。



座談会 地域デザイン戦略委員会

～今から行動すること、私たちにできること～

伊藤 地域デザイン戦略委員会は、旭川デザイン協議会(以下ADA)の専門委員会として今年度立ち上がりました。三役、会長・副会長と3人の顧問でこの委員会を組織しています。10年を経たADAが、どこへ向かって何をすべきなのかを話そうというのがこの会議の目的です。きょうは、その会議の様子を皆さんに見ていただく公開会議です。

小林 きょうのテーマを「今から行動すること、私たちにできること」としました。観念的に言うのではなく、具体的な結論として、今年はこちらをしようという話が、一つでも出てくると嬉しいなと思います。

まちづくりに関わること

杉本 私は今、旭川市のシンボル施設検討会に参加しています。JR駅舎がオープンして北彩都がこれから大きく変わっていく中で、ここにシンボリックな施設を作るための検討会です。観光施設や物産機能、レストランなど、色々アイデアが出ていますが、デザインギャラリーからも近いので、ADAから何か提言・提案できるようになればと思っています。



渋谷 地元の叢智を集めるという方向に、検討会が頑張っているんですね。

大谷 私は中小起業家同友会に入っています。その中で今年立ち上がった部会として、観光と企業というキーワードを元に、旭川を活性化させようという会があります。旭川を活性化させながら、各企業のビジネスプランとして役に立つプロジェクトを今模索しています。

伊藤 我々が関われる可能性というのは・・・

大谷 例えば具体的に出したのが、冬まつり。今、海外のツアーの方が沢山来旭しています。美味しいものを食べたり楽しい体験をしていただくと、



また旭川に来ていただける。そこで会場づくりを始め、さまざまな魅力づくりを提案していくのはどうかという話が出ています。そこにADAも関わっていただけたらと考えています。

■出席者
 小林 謙(会長) 杉本 啓維(副会長)
 大谷 薫(副会長) 長原 實(顧問)
 渋谷 邦男(顧問)
 ■コーディネーター
 伊藤 友一(専務理事)

小林 デザインで観光をアップグレードしていくというのは、やりがいがあると思いますね。

地域から発信するデザイン史

渋谷 私はデザイン史を編纂して2年になるんですが、大変反響を呼んで、今度、静岡、神戸、金沢、福岡と旭川の5都市のデザイン史が1冊の本になる予定です。そのコンセプトは中央のデザインに対する地域デザイン。東京や大阪など経済をリードしている都市が発信するデザイン史でなくて、その100分の1くらいのパワーしかない地域がデザインに取り組む軌跡を記録に残して、大きくしていこうと。先日旭川のデザイン史を知人に送ったところ、こんな返信が来たんです。「歴史ってのは、つくづく読んでみると、主体的な行動をした項目が歴史に載るんですね」と。受け身的な行動をしている範囲では、歴史にならない。だから、自分達が考えて、自分達がいいと思う事に、本気で集中して初めて後世に残る、又は影響を与えることになると思うんですね。

良いものを選ぶ目

長原 私は、やっぱり出版物をつくりたいなと思いますね。2年に1回ぐらいでもいいんですが、旭川の優れたデザインを選んで、それを印刷物として残す。これは、みんなが選ぶ目を持たなきゃいかんという意味もあるんです。出版物を発信することは、地域のステイタスをつくる、イメージをつくるということ。だから出版物の質というのがとても大事になります。写真の質も相当いいものでなきゃいけない。書店で扱ってもらえるレベルの高い出版物を英語と日本語で作りたいですね。もちろんPRのための資金集めというのもとても大事な要素です。

小林 今回のADA展の展示も実は初めての試みなんですが、会員さんが、会員じゃなくてもいいから、この1年、旭川に関連して、良いデザインのことをみんなで紹介しようよということをやってみました。僕の気持ちとしては、デザインの質の問題を取り上げたかった。ADAというのは、とりあえず仲良くという意識でやってきましたが、これからは、お互いのデザインに対する厳しい目を持つとか、語り合うことも必要だと考えています。



ものづくり大学のこと

長原 ものづくり大学をつくることは、私はこの街にとって絶対に必要なものだと思うんです。数年後この街から若者が数百人いなくなります。そして、ものづくりを目指す地元の若者も去っていく。地域で高いものを目指そうとするなら、やっぱり大学教育は大事です。ものづくりは200年間、工業化という方向で進んできました。工業化というのは、沢山作ること。その結果として人々は幸せになったか。すさまじい世界不況を呼び覚ました。そう考えると、私は旭川で考えるものづくりというのは、21世紀のためのものづくり、ということだと思います。それは製造から創造への転換ではないでしょうか。創造というのは、人間の知の動きなんです。これを重要に考える大学を作りたい。だから大学には、技術者だけでなく芸術家も必要です。

渋谷 今、公立大学は日本各地で続々と作られています。それは名寄や釧路など小さなまちが作っている。それは地域が大学を必要と感じているからです。21世紀の今のものづくりって、地域と歴史から離れてしまった



ものづくりなんです。たとえば原発がなぜ福島にあるのか、地域性もなく、歴史的な説明もできない。原発の問題はそうした現象の一つなんです。そこで逆に、地域と歴史というキーワードを持ってくれば、新しいテーマが生まれます。たとえば、デザインと農業とか、デザインと食とか。私はこれからのデザインは、今まで営々と積み上げてきた歴史を振り返りながら次を考えること、そして地域の土地や空気や自然と地域の主な産業をしっかり見ながらデザインする、それが新しいものづくりじゃないかと考えています。

小林 農業は今、6次産業といわれて、作るだけでなく売ったり食品加工したりと多角的になって来ているわけですが、ある農業法人の方が言っていました。農業は、今まで一番遅れた産業と言われ続けてきた。遅れに遅れて、他の産業から1周遅れて、気がついたらトップランナーになってた、と。つまり近代産業で生まれたいろんな問題を解決する手段を持っているのは農業だ、ということなんです。家具も農業も工芸もローテク産業、それが、コンピュータをベースにしなが、地域を飛び越えて、ひとつの世界を作っていく時代になってきているのかなって感じがするんですよ。

学ぶこと、生きること

長原 大学のカリキュラムとしては、4年間の内の、前期と後期に分けて、前期は職人修行のようなことを徹底してやる。後期の2年間はクリエイティブな創造の世界、感性を磨く芸術的な世界をやりた



いと思うんですね。独立できるような人材を育てる、そういう大学にしたいんです。**渋谷** 私は歴史編纂の仕事について、こんなキーワードを作りました。35歳までは聴く人。55歳を過ぎたら残す人。そして、35歳から55歳までが、働く人です。

これからのADAが担うもの

伊藤 各地のデザイン団体を見ると、たとえば、石川県や阿蘇山は財団法人、富山は社団法人にしている。北九州とか神戸はNPO。デザイン協議会が成熟して公的な組織になっている。そして街づくりに責任をもった提言をしている。旭川の街づくりに対して、実は東海大学が今までそうした使命を果たしてきた



と思うんです。景観の問題や橋の問題、買物公園の問題など。その東海大学がなくなることによって、誰が街のデザインコーディネイトをやるのかという、現実の問題にぶつかってくるような気がします。だから今度はADAが、3年後とか5年後の長いビジョンで、ものづくり大学と連携してその役割を担っていくことになるのではないのでしょうか。

国際家具デザインフェア旭川2011 (IFDA2011)

旭川デザイン協議会 副会長 杉本啓維 (旭川家具工業協同組合 専務理事)



1990年から3年ごとに開催している「国際家具デザインフェア旭川2011」は昨年6月の開催で8回目を数えました。イベントのメイン事業となるデザインコンペティションには、世界36カ国・地域から899点の応募があり、応募作品は時代の空気を読み取った多彩な提案がありました。一昨年の12月に開催した予備審査(画像審査)、また、当初2011年3月中旬に予

定していた本審査(実物審査)が東日本大震災の影響で4月に延期してなんとか開催をしました。残念ながら震災の影響で当初予定した全ての審査委員の参加は不可能でしたがインターネットを活用した画像審査も交え、予定通り国際的な審査会を実施しました。

旭川家具メーカーの総力を挙げて現物の試作を行い、緊張感のある審査会を経て選ばれた入賞作品9点と入選作品22点は旭川と東京で開催されたプレス発表で大々的に告知されました。

ゴールドライフ賞を含む全ての作品は、6月の本会期に旭川市科学館サイバルの特別展示室を会場として展示をしました。今回は北彩都地区をメイン会場として、「オープニングパーティ」「デザインセミナー」「作品プレゼンテーション」などを実施。また永山地区の旭川家具センターでは「第57回旭川家具産地展」を実施。さらに旭川美術館、デザインギャラリー、東海大学などの周辺エリアでも各種関連イベントを開催しデザインフェアにふさわしい質の高いイベントが実施できました。

回を重ねるごとにイベントの内容が充実し、国内外のデザイナーやものづくりに関わる人々、そして使い手であるエンドユーザーを巻き込んだ交流の場となりました。次回、第9回目は2014年に開催予定です。

北欧の美しい暮らし LIFE&DESIGN

IFDA2011の関連イベントとして旭川美術館で開催された「北欧の美しい暮らし」には椅子研究家である織田憲嗣先生のコレクションから、北欧モダンデザインの黄金期1950-60年代を中心に家具&クラフト約300点を展示。監修には織田先生自らがあたり、名作椅子からガラス工芸、テーブルウェア、玩具、照明まで幅広く紹介しました。

約1か月の開催期間中には毎週末にトークセッションも実施し、多くの来場者でにぎわいました。また、IFDA2011の開催期間中に行ったバスツアーには織田先生ご本人からコレクションの解説があり、一緒に参加していた島崎信さん(武蔵野美術大学名誉教授)も加わって豪華なトークイベントが開催されました。告知ですが、今年の4月には韓国のデリム現代美術館において織田先生監修による「フィン・ユール展」が開催されます。



グローバルカル巡回展 in ベルリン

『グローバルカル』とは、世界の中で常に高い品質を求め、伝統的にもものづくりのノウハウを蓄積してきた地域(=ローカルエリア)にスポットを当て、その地域が持つ伝統・技術といった宝を「デザイン」を通して世界(=グローバル)へと発信していくプロジェクト。

「ものの価値とは何か、どのようにものを選び、何をかうのか」を現代の消費者に問いかけ、意識の変化から環境保全へと繋げることを目的とした文化活動です。

旭川家具工業協同組合とドイツのデザイナーズクラブ(DDC)とのコラボレーションにより始まったプロジェクトです。

まず、2011年1月にドイツで開催された「ケルン国際家具見本市」に出展し、pure villageブースにおいてドイツ人デザイナー

と旭川家具との共同開発をした製品を大々的に出展をしました。

また、「グローバルカル」の巡回展となる2度目の展示会は、10月にドイツ・ベルリンで開催された「QUBIQUE」というデザインイベントに出展。旧飛行場が展示場にリノベーションされた魅力的なエ



新会員紹介

有限会社 三広堂 代表取締役 鈴木敏治



当社は1957年の創業で今年で55年になります。私が22歳の時に父親が49歳の若さで亡くなり、大阪芸術大学デザイン科を卒業して大阪でデザイン会社に勤めていましたが、帰郷し家業を継ぐことにしました。当時はすべてがアナログで、ユーザーに提出するデザインはポスターカラーで描き、看板はすべて手描きの時代でした。職人の世界です。今はパソコン、大型インクジェット、カッティングマシンと時代の変化を感じています。営業内容につきましては、サイン工事を主としています。特にサイン計画から提案し、製作、現場施工をしています。また、ユーザー様に対して施工済の物件の保守、管理等のサービスもしています。北は利尻、礼文まで行っています。最近施工した仕事で楽しかったのは、2010年秋に旭川市立高台小学校が新築をしました。在校生を対象にワークショップを開き、切絵、ぬりえをしてもらい、廊下の壁面全体にグラフィックス処理をして、大型インクジェットで出力したシートを貼りました。全部で350㎡もありました。生徒玄関、教室表示、門柱サインとすべてが生徒の作品を活用した、楽しく温かみのある学校になりました。昨年はフィール7階旭川まちなか市民プラザのサインを計画から施工をしました。何かの機会がありましたら見てください。

株式会社 須田製版 旭川支社 旭川支社長 須田 守

(株)須田製版は、これまで80余年の歩みのなかで、販売促進から出版に至るまで、総合印刷としての業務を確立してきました。さらに、急速に進展する情報処理の高度化の中で、それを支えるデジタルシステムを社内各部門に導入し、現代の情報化の流れに対応する幅広い業務を進めています。印刷業務では、これまで培ってきた優れた技術力をデジタルシステムに活かし、高度なデータ処理とともに、最新鋭の印刷機器の導入によってあらゆる紙媒体に対応する、美しく高品質な印刷を可能にして

います。また、企画制作においては、一層多様化するお客様のニーズに、迅速に、確かなカタチでマネージメントし、創造性、独創性をもって多彩なプランをご提案できるスタッフを揃えています。さらに、人材育成を図る中で、インターネット等、さまざまなメディアに対応していく企画制作を進め、総合印刷にとどまらず、デジタルサイネージ、大型パネル等、新しいデザインの可能性を拓く訴求ツールの開発、イベントブースの演出など、トータルプランニングに取り組んでいます。

代表 小山 良榮 (有限会社 良栄・PLAN)



YOSAKOIソーラン祭りの踊り子衣装やユニホームなどアパレルデザインからスタートし、現在は旭川地域発にこだわった商品デザイン開発も手がけております。

2008年旭山動物園グッズコンテストでは、当社商品の「手ぬぐるみ」がグランプリを頂きました。

手ぬぐるみは、日本手ぬぐいを切ったり縫ったりせずに畳んだだけでぬいぐるみにしている商品です。

また、当社は旭川の地域基幹産業でもある農業のデザインプロデュースにも関わらせて頂いております。商品開発からパッケージデザインまで、常に現場において生産者の方々と一緒に作り上げる事を行っております。

地域の人が生産品に込めた想いを、多くの人に知ってもらうためデザインを通じたブランドづくりで商品プロデュースをお手伝いし、地域産業の発展に努めたいと考えております。

そして、今年は和柄にこだわった子ども服のブランドを立ち上げる計画をしております。扱う品目は多岐にわたりますが、すべてに共通しているのは、地域そして日本の良さを商品を通じて伝えて行く事のできるものづくりです。

